

## 南足柄市立岡本中学校

研究テーマ：生徒の未来につながる主体的に学習に取り組む態度の育成  
～生徒・職員の学び合いを通して、深い学びへ～

### 1 実践の目的

学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善を図ることが重要であるとされている。そこで、目指す学習者像を共有し、生徒と職員が学び合い、ともに質の高い授業の創造をめざすことで、生徒の主体的に学習に取り組む態度が育成され、「確かな学力」の向上に結び付くと考えた。さらに、市の研究テーマにもある通り、生徒が主体的に学習に取り組み、粘り強く学び続ける力を育成したいと考え、本研究テーマを設定した。

### 2 実践の内容

#### (1) 質の高い授業の創造

##### ①主体的に学習に取り組む態度の育成

目的に応じたICT機器の活用、問いや課題の設定とふり返りの充実、対話的な学びの充実を研究の重点項目として設定し、各教員が実践を行い、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成してきた。

##### ②信頼性、妥当性の高い評価の実施

評価の研修を通して、信頼性、妥当性の高い評価について研鑽を積んできた。主体的に学習に取り組む態度の育成の評価については、生徒の変容をみとめるものや、粘り強く課題解決に向かう姿勢をみとめるものを資料として蓄積してきた。

#### (2) 生徒・職員の学び合い

##### ①「学び合い皆議」の実践

毎月の職員会議後に「学び合い皆議」を設定し、授業実践の紹介や意見交換を行う取組を継続してきた。

##### ②研究協議・カンファレンスの実践

校内研究全体会において、生徒も交えた研究授業を実施し、生徒・職員で学び合うカンファレンスを行った。職員の視点だけでなく、生徒からの視点を参考に学び合うことで、さらなる授業改善につなげることができた。また、各研究授業・公開授業においては、各職員年1回を基本とし、その授業を指導主事、教育指導員に参観してもらうことで、学びの多い研究授業を目指した。

### 3 実践の成果と課題

#### (1) 質の高い授業の創造

○対話的な学習の充実をめざす授業の実施  
(2学年外国語「Unit 1 What can we experience on a trip?」)

2学年外国語では、対話的な学習の充実を図ることを目標に授業づくりを行った。研究授業では生徒自身が「夏休みに体験したこと」をテーマとして設定し、話し手として伝えたい内容や順序について考え、聞き手に分かりやすい展開や構成を考えて発表した。外国語の学習活動はペアワークが主となるものが多いが、今年度はグループワークの機会を増やして班を頻繁に入れ替えることで生徒の活発な思考を促し、学びを

深める取り組みを実践してきた。その結果、生徒は聞き手にとって理解のしやすい内容になるよう対話を重ね、文章の構成に焦点を当てながら自己表現することができていた。また、グループ内で互いの文章を校正する時間を確保することで、個人の力で文章を組み立てることが難しい生徒に対する支援となる一方、英語を得意とする生徒にとっても、既習事項の復習や文章の構成について再度考える機会となった。



## (2) 生徒・職員の学び合い

### ①「学び合い皆議」の実践

ICT機器を活用しながら職員のニーズに合わせた学び合いを行い、日々の授業に還元できるように工夫した。今年度も、学習に関するアンケートや日々の学習活動における課題をテーマに各教科・各学年で解決を目指した学び合いを行った。

### ②学び合いカンファレンスの実践

他学年の生徒が研究授業を参観し、授業後に生徒、教師でのカンファレンスを行った。授業を受けた生徒は授業内で、何を意識して学習に取り組んだのかを振り返り、参観生徒は授業者の視点を持ちながら、授業をどのようによりよくしていくかを考えた。特に前述の授業のカンファレンスでは、授業の成果について議論したり学習内容の見直し提案をしたりするなど、参加した生徒から活発な

発言が多く見られた。生徒からの授業改善に向けた意見は、職員にとっても有益なものが多く、日々の授業づくりにおける学びとなった。職員も生徒の記述や各グループのまとめを参考に、授業改善に向けて活発に意見交換することができた。今後も生徒の意見を大切にしながら授業改善を続け、生徒・職員の学び合いを深めていきたい。



## 4 今後の展開

継続して生徒・職員の学び合いの場を設定してきたことで、生徒と職員がよりよい授業づくりを目指そうとする議論が活発となり、職員の授業力の向上、質の高い授業の創造につながった。今後も校内研究の取り組みを継続するとともに、実践から生じる課題から内容を精選し、生徒と職員が学び合うことのできる場をさらに設けていきたい。また、全校生徒を対象に実施した「学習に関するアンケート」の結果から、自分の意見を書くことが苦手な生徒が多数いることがわかっている。生徒の課題解決に向けた主体性は高まってきたが、その内容を整理してワークシートや単元の記録シートにまとめることにはまだ苦手な傾向がみられる。今後も主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、生徒自身が主体的に学んだことを知識や技能と関連付けて思考し、表現する力を身に付けさせていきたい。